米沢市教育委員会 会議録

令和6年8月9日（木）

開会 午後 1時30分

閉会 午後 3時30分

1 出席委員

教育長 佐藤 哲 委員 神尾 正俊 委員 佐藤 晃代
委員 我妻 仁 委員 渡邊 美智子

2 出席職員

教育指導部長 山口 博 教育総務課長 石黒 龍実
社会教育文化課長 高橋 稔 スポーツ課長補佐 伊藤 康弘
学校教育課長 五ノ井 智子 教育総務課長補佐 嵐 一成
教育総務課長補佐兼総務主査 佐藤 真英 教育総務課主任 島貫 晶江
適正規模・適正配置推進主幹 森谷 純

3 傍聴人の有無 有

4 会議録の承認

令和6年7月5日開催分

令和6年7月18日開催分

5 議事

議第29号 米沢市立学校の設置等に関する条例の一部改正について

議第30号 米沢市立小学校、中学校通学区域等に関する規則の一部改正について

議第31号 令和6年度一般会計教育関係補正予算（第3号）について

議第32号 令和5年度教育委員会の事務の点検・評価について

6 報告事項

(1) 米沢市学校給食共同調理場基本設計について

(2) その他

7 その他

教育長 米沢市教育委員会を開会する。会議については、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の規定により原則公開となっている。本日の会議の案件については市議会の議決を経るべきもの、また、市議会への報告を予定しているものであるので非公開としたいと思うが、ご異議ないか。

———異議なし———

教育長 本日の会議は非公開とする。

———会議録の承認———

教育長 議決案件に入る。議第29号米沢市立学校の設置等に関する条例の一部改正について説明をお願いします。

適正規模・適正配置推進主幹 ———資料により説明———

教育長 ご質問等いかがか。なければ、議第29号米沢市立学校の設置等に関する条例の一部改正について承認いただいでよろしいか。

———異議なし———

教育長 ご承認いただいた。次に議第30号米沢市立小学校、中学校通学区域等に関する規則の一部改正について説明をお願いします。

適正規模・適正配置推進主幹 ———資料により説明———

教育長 ご質問等いかがか。

我妻委員 第一中学校の通学区域において、桜木町は「2番1号から69号まで、3番」と記載があり、これは、改正後も変わらない。しかし、同町の2番71号は、一中の通学区域になるという認識であったが、記載によるとすれば一中の通学区域からは外れている。これはどのように認識すべきか。

適正規模・適正配置推進主幹 この度の規則改正については、令和7年度の時点で、一中和五中の統合に伴う通学区域の変更である。興譲小を卒業の皆さんが一中になるという規則改正については、別に令和8年度の4月1日に向けた規則改正を行うこととなる。このため、令和7年の4月1日の時点での改め文としては、このような形になる。

教育長 他にはいかがか。なければ、議第30号米沢市立小学校、中学校通学区域等に関する規則の一部改正について承認いただいでよろしいか。

———異議なし———

教育長 ご承認いただいた。次に議第31号令和6年度一般会計教育関係補正予算（第3号）について説明をお願いします。

教育指導部長 ———資料により説明———

教育長 ご質問等いかがか。なければ、議第31号令和6年度一般会計教育関係補正予

算（第3号）について承認いただいでよろしいか。

———異議なし———

教育長 ご承認いただいた。次に議第32号令和5年度教育委員会の事務の点検・評価について説明をお願いします。

教育総務課長 ———資料により説明———

教育長 ご質問等いかがか。

神尾委員 8ページの（1）に、「児童生徒自ら課題意識をもって主体的に学ぶ探究型学習を実施し、家庭学習と授業での学びを有機的に結びつける」とある中で、家庭教育と授業での学びを有機的に結びつけるということは具体的にどのようなことか。

また、同じく（1）の最後に、総合学力調査の結果を分析したデータから児童生徒の強みや弱みの実態を把握し、実態に応じた授業改善に活かすことができたということであるが、今年度の学力テストの結果などから、残念ながら山形県は全国平均を下回ったとの事だった。そのため、具体的にどのような授業改善ということでのどのような取組をなされたかということをお聞きしたいと思った。

もう一点、（2）の不登校の児童生徒への対応ということであるが、新規の不登校児童生徒を出さないというようなことが2行目にある。以前と比べて不登校の専門員の方や、適応指導補助員の方、コーディネーターの方など色々な支援体制が充実してきて学校の方としても助かる、手厚く配置していただいているが、実際に新規の不登校の児童生徒はどの程度あったのか。

学校教育課長 まず、家庭教育と学校での授業とを有機的に結びつける、というところは具体的な例をいうと、授業で行った内容をもとに宿題として行い、それをまた授業の方に活かすというようなことである。中身としては調べ学習だけでなく、発展的なところで子どもたちに課題を与えて、調べてきたものを学校でもう一度皆と話し合うというような形で個別でありながらも協働的な学びに活かせるような部分について家庭で行い、授業と家庭での学びを結びつけたり、個別という点に関わってくるが、授業で分からなかった点を家庭に持ち帰り、デジタルドリル等を利用しながら自分の弱みについて復習を行い、また授業に活かす、というところで子どもたちによるチェックとアクションで有機的に結んだりといったことを考えているところである。

総合学力調査の結果を活かした具体的な授業改善の方法に関しては、2年目となったので、経年変化がみられるようになったというところであるが、具体的に今まではどちらかという、弱みや課題の部分について挙げるが多かったが、強みを見ることもできるテストでもあるため、どこが良かったかということ、個人でもクラス全体でも読み取ることができるため、そちらを把握し

て、授業改善に活かしていくということである。上位層の子だけが良いのか、下位層の子だけが悪いのかということではなく四層分析ということができるため、どの部分が強みであったり弱みであったりするかということをも具体的にデータから見るることができるのを活かして、一斉指導であったり個別指導であったりの学習形態、授業改善に活かしていくところがある。

不登校の取組については、新規の不登校を出さないように進めているが、やはり増加傾向にあり、全体的に発生率も上がっていて、過去最高となっている。実数が手元にないが、4年度よりも増えている、低学年の方でも新規の不登校が増えている状況である。今年度も引き続き新規の不登校を出さないよう対策を立てている。現在のところ増えてはいないとの把握をしている。

佐藤委員 11ページにある自己のキャリアについて前向きに考えている子どもの割合というところで、令和2年からコロナ禍が始まって学校に通えなかったという期間があるわけだが、前向きに自分のキャリアを考えている割合が、小学生の方では減っていて、中学生の方で少し増えているのは、先ほどおっしゃられたキャリア教育の推進を実施していただいているおかげかと思う。小学生が前向きに考えられないところが悲しいとは思いますが、子どもは小さいころは直接大人に聞いたり、褒めてもらったり、励ましてもらったりといったことが前向きな気持ちに結びついたりもすると思うため、ますますそういった点を励んでいただきたい。

読書に関してだが、前々から家読など家での読書が大事だと言っているが、少し下がっているというのは、コロナの影響が少しはあると思う。学校に通えない時だからこそ読書しようという取組も、そもそも本を借りにいけなかった可能性もあるのではないだろうか。ぜひ令和7年度の目標に向かってこれから活動いただければと思う。

成果指標ばかりで申し訳ないが運動能力調査も下がっているのがとても気になる場所である。今年、小学校の運動会に携わらせていただいて、体育の時間を過ごさせていただいたが、45分耐えられない子がとても多く、低学年だけでなく、中学年も耐えられていない子がいたため、学校に通っていない期間があったことで体を動かし慣れていないのかとも思った。しかし徐々に友達と一緒に体を動かしていき、運動が好きという子どもを作り、ぜひ体力をつけてもらいたいということで、今後ますます工夫を期待したい。

学校教育課長 中学生の将来の職業観というところは、広くキャリア教育という風にもみると、職業に結びつくのはもちろんのこと、委員がお述べのとおり、自分が認められる、褒められるというような部分について、現在もキャリアパスポートというものを利用している。子どもたちが自分でそれを見て成長を感じるといった機会になっていければということで導入しており、管理職の研修会でも

浸透化したとの話をいただいている。引き続きキャリアパスポートも利用した教育の充実を図っていきたいと考えている。

読書については、前回もお話しさせていただいたとおり、活動が進むように学校司書とも連携して進めていく。

体力不足については、小学生の部分は数値にあるように、上り調子だったものがコロナの影響で下がってしまったということが如実に表れている。今回小学校体育振興会の方で、アクティブチャイルドプログラムという、体育の中に遊びの要素も取り入れて体力向上を図るというものに全市を挙げて小学校で取り組んでいくため、コロナが明けたところで、再度授業を通して体力向上を図っていくことを本年度進めていくので、引き続き体力向上に向けて進んでいきたい。

神尾委員 先ほどの話に関連して体力運動能力調査の話になるが、11ページの成果指標の欄4つ目の令和7年度の目標値のところに関して、令和5年度のコロナの影響もあったと思うが、令和7年度で小中学校ともに100パーセントを目指すというのは、無理がないかというのをお聞きしたい。

教育指導部長 昨年度まで中学校に勤務していて、コロナだけでなく、夏の熱中症対策についても、従来であれば9月の新人大会に向けて、この期間体力づくりに励んでいた。小学校についても同様であるが、中々そういった機会を確保できなくなってると大会での生徒たちを見ていて感じたところだ。

渡邊委員 先ほど神尾委員からも(2)の学校不適應の未然防止についてどのような具体的な取組をされているかという質問があったかと思うが、もう一度その点について具体的な学校での活動を教えていただければと思う。

また、(4)の教員のICT活用力・指導力の向上のところの下から3行目のICT支援員は全ての小中学校に1,120時間配置したということで、今まで中々ICT活用というところで、新たに出てきたものに教員が対応しきれないというところを、支援員の方が補佐しているのかと思うが、具体的にはこの1,120時間というのは何名の方で網羅されていたのか教えていただきたい。また、教員はもちろんICTを駆使していかなくてはならないと思うが、中にはやはり苦手な先生というのもいらっしゃると思うので、先生のICTの研修というのをされているとあったと思うが、その中でも自分の中でまだ苦手意識があるという先生がまだいらっしゃるということだったため、支援員の活用を増やしていき、先生は授業に特化していくという方向にいくのか、今先生方にもICT活用の研修を重ねて技術を身に付けていって、どちらかと言えば支援員は補佐的な立ち位置で配置していくのかという将来的なところをお教えいただきたい。

3点目は11ページの成果指標に関して、自己キャリアについてのお話があっ

たと思う。現在はキャリアパスポートを実施しているとのことだったが、いつから実施していて、キャリアパスポートを小学校から中学校に上がった時にどのように活用していくかということをお聞きしたい。

学校教育課長 不登校の予防については小学校の方は適応指導補助員ということで各学校に配置させていただいている。主に低学年の方に入らせていただいて、スムーズに小学校の生活に慣れ、適応できるようにということで配置している。すでに不登校になっている生徒に関しては、ケース会議などで、学校内で情報を共有して、どのようにしたら解消できるか、復帰ができるかというところから、この後どういったサポートをしていけば良いかというところを話し合うような会議を行っている。また、関係機関との連携も行い、スクールソーシャルワーカー、教育支援センターとの連携をとって、学校や保護者に寄り添いながら、不登校を解消し未然に防ぐ取組を行っている。

ICT支援については、支援員は1人体制で全ての小中学校を周っていただいている。目指すところは先生方が自走できるというのが一番であるため、そこを目指して、年3回ほど研修を行っている。また、学校の方でも、校内における研修も行っていただいている。現在は1名の支援員に事前の準備や、授業の補佐などをしていただいている。今後このまま継続できればと思っている。

キャリアパスポートに関しては令和2年度から国の施策に伴って実施している。キャリアパスポートは小学校、中学校、高校まで持ち上がっていくものということで、学年によって違うが主に年に4回、行事や自分の成長に気づけるような場において振り返りを行ったもので、それぞれの学期でめあてを立てて振り返るといふもの、伸びを実感するというようなものを積み重ねてファイルに綴じているものである。現在それを中学校、高校にまで持ち上げて使っている。綴じて終わりではなく、次の学年に上がった時に前の学年の自分はどうか、今の学年で自分はこれくらい伸びたと実感できるものになるのではないかと思い、子ども自身が伸びを気づけるようなものとして、利用できたらと考えている。

渡邊委員 低学年のお子さんだと中々自分の気持ちを言葉で表せなかったり、友達に言ったら馬鹿にされたりと、どうしても周りに相談するといったことが中々できない状況に置かれる年齢かと思う。そこで本人中心として一番身近な、家族だったり学校の先生だったり、大変だとは思いますが学校での様子や家庭での様子を共有する方が良いと思う。事例が発生してからでは手遅れであるため、未然に防ぐのであれば、学校とご家庭とで協力しながら情報を共有して、子どもが言葉に表わしたり、態度に出したりする前に些細な変化に気づきながら、おうちの人から生徒にアプローチしてもらおうとか、学校の先生の中でも児童生徒さんの状況を分かってもらえると、子どもも安心して、学校に行きたいとか、居場

所があると思うのではないだろうか。色々なことがあって大変な仕事だとは思
うがお願いしたい。

神尾委員 生涯学習ということで、前にも申し上げたが、社会教育文化課、各コミセン、
鷹山大学などがあって本当に多種多様な講座が開設されていて、それも市民の
方にわかるように配布されているということで、大変素晴らしいと思っている
が、21ページの今後の施策の推進について、関係機関との連携を図り、個
人、地域、社会のニーズに沿った質の高い多様な学習機会の提供というよう
なことがある。このニーズに関して具体的にどのように市民のニーズの把握を行
っているのかお聞きしたい。

また、22ページにコミセンの職員の方々、地域づくりに興味のある市民の
方々を対象にした講座が合計9回開催されたとのことだが、内容を見ると多岐
にわたる講座で素晴らしいと思った。生涯学習の最前線で仕事をされているコ
ミセンの職員の方々の9講座への参加率はどの位なのか。出来れば全ての講座
に参加いただきたいがそれは無理だと思うので、コミセンの方々の中でどの位
の方々がこの9回の講座に参加されていたのかお聞きしたい。

社会教育文化課長 まず市民ニーズについてだが、様々な講座の終了後にアンケートを実
施している。そちらに実際に記載される方は少ないが、その中でもICT系の
講座も行なってほしいといったようなニーズを把握している。そういった講座
の際に聞き取りをして把握するという形になっている。

もう一点のコミセン職員の方の講座への参加率に関してだが、現在押さえてい
る数字はないが、それぞれの講座に必ずコミセン職員がいたかと言われるとそ
うではなかったように思う。

神尾委員 参加人数が書かれているが、コミセンの職員は参加せず、一般の方々のみ
の参加だった回もあったということではよろしいか。であれば、コミセンの職員は
できる限り1名は参加するというような規定を設けるといったことは不可能か。

社会教育文化課 もちろん案内をコミセンの方に出ささせていただいて、時間帯も夜の
時間、出てきやすい時間に設定してはいるが、そうになると職員の時間外の問題
が出てきてしまうので、ご自身で講習に出てきていただけるような参加しやす
い環境づくりも必要なのではないかと思います。もちろん時間内での講習も行な
っているが、中々出てきづらいとか出てこられないということもある。興味
のある講座という形で色々なプログラムを組んでいるが、コミセン職員全員が
参加していたわけではなかったように思う。

神尾委員 講座の開催時間は夜が多かったのか。

社会教育文化課 夜の開催が多かった。

佐藤委員 33ページ(3)の市民スポーツ教室の開催というところで、載っている種目
はあまり変わっていないように見えるが、実際教えている方々は各競技団体の

方なのか、スポーツ課ではなくスポーツ協会との共催なのかというところを教えてください。それと共に、市民のニーズというものを考えたときに、必ずしもそういった競技団体だけのスポーツではなく、ニーズを把握し種目を多様化して、市民スポーツ教室とするからにはもっとニーズを増やしていけたらよいのではないかと思う。

また、スポーツ施設の利用状況について、コロナの影響もあって利用が減ったかとは思いますが、体育館の利用をしたいとなっても、中々冷暖房の完備がされていないというところがあり、夏季や冬季などは、高齢福祉課、健康課等の様々な教室があるが、提携している業者であったり、個人の指導者だったり体育館を使わずにコミュニティセンターのホール等をお借りするようなかたちになっているので、スポーツ施設利用状況で見たときに、体育館とか市のスポーツ施設だけではなく、コミュニティセンターにも人数を教えてください。スポーツをしている市民や、運動しているという市民は多くなると思う。高齢者などはほとんどコミセンが大多数かつ人気で場所が取れないところもある位なので、そういうところで、財政厳しい中で体育施設を改修して新しくするというのは無理があることだと思うので、前向きに、夏は涼しく、冬は暖かいというところで運動している方々も、一米沢市民として運動しているというところで把握もしていただければ利用者数も上がるのではないかと思う。

39ページの障がい者スポーツの全国大会の参加人数のところに関して、どういった種目で参加しているのか分からないので教えてくださいということ、障がい者スポーツ指導員は、これから指導員数を増やし、少しでも取り組む人数を増やして行って、誰でもどこでも平等にスポーツを楽しめるようにすることが大事だと思うので、競技を限定せず、楽しく体を動かすというところを目指すためにも、障がい者スポーツ指導員の拡充や、今現在オリンピックが開催されているが、その後、パラリンピックもあり、こういった時にこそ目が向くかと思うので、ぜひスポーツ課だけでなく色々な団体と共に携わって、そもそもスポーツをしている人数を増やしていければよいと思う。

スポーツ課長補佐 市民スポーツ教室に関して、こちらの事業については米沢市スポーツ協会と本市との共催で行っているものである。委員が述べられたとおり、こちらの種目は10年程前からほとんど同じような内容という実態である。まず市民ニーズというところに関してスポーツ協会や競技団体との情報交換をしながら、市民ニーズに合ったものを、今までの1つの競技というところに囚われず、視野を広く持ちながら検討していきたいと考えているところである。

続いて、体育施設の利用に関しては、本市の体育館は冷房の方は完備しておらず、暖房の方はあるが市民の皆様が暖かいと感じるようなレベルのものではないというのが現状である。そんな中、コミュニティセンター等本市の体育施設

以外で運動をされている方がいるという状況把握は関係課と共有しながら反映していければ、明確に利用者状況を把握できると思うため研究していきたいと思う。

続いて、全国障がい者スポーツ大会の参加競技についてだが、令和5年度鹿児島大会には、成年男子陸上競技のソフトボール投げに1名参加されており、こちらはスタッフの方も合わせて3名と標記されている。また、障がい者スポーツの指導員の数というのは、現状把握していないという状況だが、今後障がいのある方や、どなたでも指導していくという指導員の増員というところは今後市として検討していくものである。

神尾委員 40ページの今後の施策の推進についてのところに、総合型地域スポーツクラブの記載があるが、ここにあるとおり、今後中学校の部活動の地域移行についても受け皿となりうる総合型地域スポーツクラブというようなことだと思うが、現在のクラブ数と、今後新規の立ち上げ等の見通しはあるのか、お聞きしたい。

スポーツ課長補佐 現段階で本市内には4つのスポーツクラブが団体として登録されている。内容としてはトランポリン関係、サッカー関係が2競技、残り1つはバドミントン中心の競技という計4団体が組織されている。今後については、スポーツ協会等と協議しているところであるが、人、モノ、金、という部分にも課題があり現段階で今すぐ創立するところはないのが現状である。

渡邊委員 基本目標1の施策1-3(2)の郷土愛の醸成と地域人材の活用のところで、中学校では郷土学習と郷土愛の醸成を目的として総合的な学習の時間で「米沢学」として地域学習を実施しているとあり、その4行下に中学3年生の在籍する学級に対し、1学級に1新聞を配布し、新聞の制作や社説・記事の比較読み等の学習活動を行い、郷土愛醸成に努めたとあるが、これだけを真に受けてしまうと小学校では実際に農業体験だとか地域活動の講話とか見たり触れたりといった活動をされているが、中学校では机上の学習を中心としたものになっているのかと思ってしまう。また、32ページの基本目標の3の多様な文化芸術と歴史・文化が息づき、豊かな心を育む地域づくりの評価にあるように、米沢市ならではの貴重なコンテンツである歴史的な資源や文化財というものに、もっと身近に感じるものとして捉えて、米沢の良さというものを学習しながら、教育の米沢品質というところにつなげていければよいと考えた。しかし、具体的にと言われるとすぐには浮かばないが、例えば、昨年あたりにバスが米沢駅前で3台ほど連なり、米沢の文化財がアニメのキャラクターなどと合わさり、沢山の観光客が来ていたということがあった。そういった歴史のある宝物を米沢市が所有しているということを小さいころからもっと身近に感じて、今は色々なもので各個人発信できるので、そういったところに繋がれば、学習の枠を超えてしまっているかもしれないが、米沢に愛着を持ちながらも米沢の

アピールに繋がっていけないのではないかと思います。そのため、机上の学習が中心のものになってしまっているのではないかと、米沢の文化財をもっと身近に感じられ、自ら発信できるような、学ぶだけでなく自ら興味をもって取り組めるような学習をできないかお聞きしたい。

教育指導部長 市内の中学校の9月の修学旅行期間中の取組としては、3年生での修学旅行にて見聞を広め、2年生は米沢チャレンジウィークと職場体験、1年生は米沢学というところで取り組む。机上の学習も必要ではあるが、1年生の米沢学では、実際に見学に行ったり、米沢のおいしい食べ物を食べたり、体験を伴って学んできたことをまとめて、保護者の方などに伝えるという活動まで進めている。先ほど委員が述べられた、宝物というのは恐らく刀剣とかそういったものだったのではないかと考えられるが、そういったところを調べるテーマの1つとしていた生徒もいたように思う。そのため、まったくの机上の学習といったことだけではないこと、例えば、米沢の魅力を感じられるものとしては2年生の米沢チャレンジウィークがある。コロナの影響で現高校1年生は体験ができず、ようやく昨年度から体験ができるようになってきたところであるが、このコロナ禍の中で工夫されたことがあり、地元の事業所を紹介する短い動画などに取り組んでいただいて、それを子どもたちが見て学び、若い世代の人達がいきいきと働いているとか、紹介をするという様な、米沢にはこういった働く場所があるのだ、ということ学ぶのも郷土愛醸成につながる部分であるかと思われる。こちらの成果の概要の中には、山形県の方からの施策ということで1学級1新聞など取り組んでいることもあるが、これだけでなく中学校の方でも様々な体験活動を行っていたと思う。

教育長 文化面の方で、何か発信したものはあるか。

社会教育文化課長 文化財については、現在調査段階のものが数多くあり、活用計画まで進んでいないのが現状である。例えば、舘山城跡であれば、今年も調査が入るわけであるが、それが終わって初めて史跡保存活用計画が作成され、様々な観光の発信ができるようになる。それについても予算がつかないことには史跡保存活用計画が作成できないため、どうにかつくように対応していきたいと考えている。

我妻委員 11ページのKPIのところ、以前にもお話ししたかと思うが、成果指標は、この場合、基本目標の1-1だと4つあるが、(1)から(7)までの実施事業があるため、内容によっては客観的なKPIを設けるのは難しいかもしれないが、できればそれぞれに事業ごとのKPIを設定していただきたい。もう一点は、例えば11ページのKPIの上から3つは全国学力状況調査による生活状況の調査などからのものだと思うが、そういった何を基にこのデータをとったのか出典を入れていただきたい。

また、先ほどのデータが学力調査によるものであれば、小学校中学校のデータであると言ってよいのか。学力状況調査の場合は特定の学年や学級で行うものであるが、小学校、中学校と言ってしまえば全部の小学生、中学生のデータだと捉えられかねないため、その点は補足が必要ではないかと思う。

個人的な趣味で申し上げますと、私は古墳等が好きでよく回っているが、戸塚山を小学校のころ遠足で登った記憶があるが、何十年も前であるため登り口が分からず、なおかつ案内が何もなかったため、ぜひ車をどこに停めるか等の案内を作っていたideきたい。

佐藤委員 昨年、山上地区の山城である鷲城を研究している方がいらっしゃって、のぼり旗や駐車場もあった。そこでは高齢者の方と一緒に、山を登り、25、6人集まった。米沢には他にも山城があるというお勉強をなさっている方もいらっしゃり、歴史とスポーツと色々なものを結びつけ、その後皆で手打ちのお蕎麦を食べるといったようなこともあったので、様々な企画ができると思う。

教育長 他にはいかがか。なければ、議第32号令和5年度教育委員会の事務の点検・評価について承認いただいでよろしいか。

———異議なし———

教育長 ご承認いただいた。次に報告事項に移る。(1)米沢市学校給食共同調理場基本設計について説明をお願いします。

教育総務課長 ———資料より説明———

教育長 ご質問等いかがか。

我妻委員 当初から何度か申し上げてきたことだが、調理場で実際に見学ができるということで研修に来られた小学生や中学生が見られるというのは非常に良いと思うが、ぜひ調理現場の色々な場面を何か所かモニターに映し、それを通じて、各学校の子どもたちと双方向で交流できるようなシステムを詳細設計の中で実現していただきたい。調理現場で働いている方の状況を見学できたり、あるいは、調理師の方から食べてほしいことを伝えたりと、色々な交流をできるような仕組みを、ICTの時代であることも活かして、ぜひ作っていただきたい。

教育総務課長 ご意見いただいた双方向の交流に関して、今後、検討を進めていきたい。

教育長 グーグルやタブレット等で給食の先生方とは簡単に交流ができるようになっていたように思うが、それについてはいかがか。

教育指導部長 業務の時間帯を外してという事にはなるかもしれないが、直接調理をされている方と双方向に交流が可能であると考えられる。また、今後、栄養教諭の方であったり、管理栄養士の方であったりの配置なども考えているため、そ

ういった方々との学習やオンラインでの学習ができるのではないかと考えている。

神尾委員 鳥瞰図にて、入口のところに農道がS字に入っており、この農道にスロープを設置すると書かれているが、ここは農業従事者など一般の方々が、常にここを横切るという想定になるのか。

教育総務課長 図面を見ると農道を分断する形で進入口がある。実態としては、分断してある場所から図でいう左側と右側それぞれ耕作されているところに入出口があり、左側の方では、グラウンド側の方で耕作を行なっているので、共同調理場の方を横断するという事はほぼ無く、また、図の右側の方についても、別の場所からの進入口があるため、実際そこで耕作されている方についても、このスロープを通らなくとも耕作は可能というような状況である。ただ、今まで道があったところに進入する車が県道からの高さがあるところを通れるように、スロープを付けるということで計画している。そのため現場の実態としては耕作に特に支障は無いところである。

佐藤委員 給食は市内を回って運んでもらうという形になると思うが、今の六中が、共同調理場からの給食が一番すぐ届く学校になると思うので、見学等に行くとなった時に、境界線があるために区切られてしまって、わざわざ大きく迂回して見学に行くことになるのかと思うのだが、その点は許容しなければならないか。

教育総務課長 共同調理場の外周は管理区分上、フェンスを設けようとして計画しているところである。フェンスの一部分で出入りできる場所を設けて、中々見学できないということが無いように配慮することも必要かと検討しているが、実際学校の方での出入りを考えると正面の方から入っていただいて、見学するというようなことを想定している。

佐藤委員 身近に共同調理場があるということで、子どもたちにとっての食育において、学校の中で作られているものではないが少しでも身近に感じていただければと思う。時間に限りがある中での見学となれば、大きく迂回して行くとなると時間がかかってしまうので、カギを付けるようなかたちでも良いため、考えていただければと思った。

教育総務課長 只今のご意見については、今後も検討したいと考えている。共同調理場を契約いただいている業者の方からは、構内を走るトラックの動線と歩行者の動線がなるべく交錯しないようにと考えたうえで、搬入車両、搬送車両は建物周

りを時計回りで回る一方通行とすること等、安全対策についても考えているようであるため、出入りに関しても、近いからということで陰の方から人が入ってくるという点を良しとするのかについても検討していきたいと考えている。

神尾委員 委託業者が、設計屋さんに頼んで設計をさせたという事か。であれば、差し支えなければ、どこの会社が設計を行なったか教えていただきたい。

教育総務課長 この度の契約に関しては、米沢スクールランチという、SPC（特別目的会社）と契約を結んでいる。そのSPCから事業応募の際に作られた企業グループの中の、設計をする企業や、建設をする企業、共同調理をする企業に発注している状態である。今回の設計については、相和という仙台の企業が行なっている。

教育長 他にはいかがか。なければ（2）のその他についていかがか。なければ5のその他についていかがか。なければ、以上をもって教育委員会を閉会する。